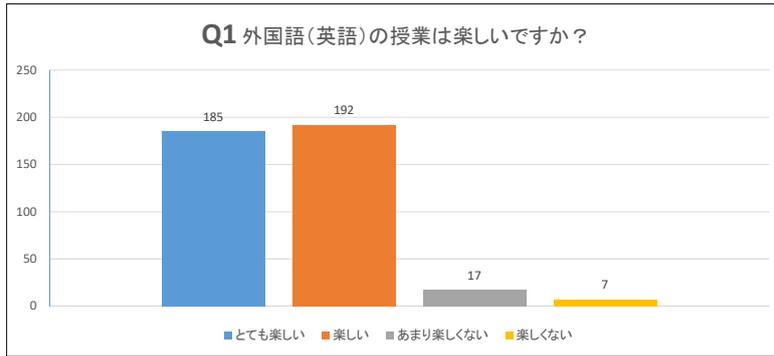


令和4年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(河江小学校)

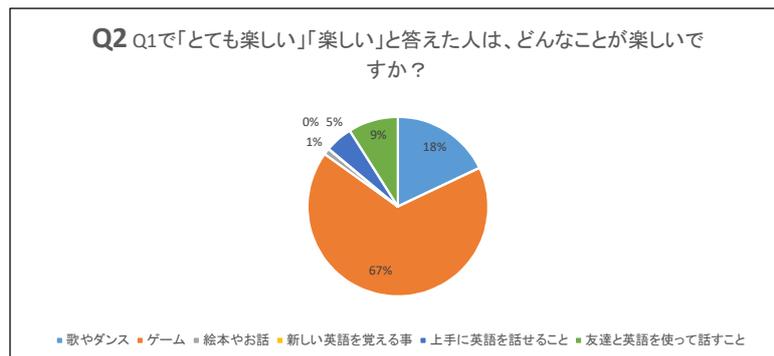


【Q1について】

全体を通して、「とても楽しい」「楽しい」が94%であり、積極的に授業に参加できている児童が多いと考えられる。この気持ちを保ちながら今後も学習に取り組めるように、「分かる・楽しい」授業展開を更に工夫していきたい。

また、「楽しくない」、「あまり楽しくない」と答えた児童が6%おり、児童の困り感をしっかりと把握しながら、すべての児童が楽しく参加できるように指導・支援をしていきたい。

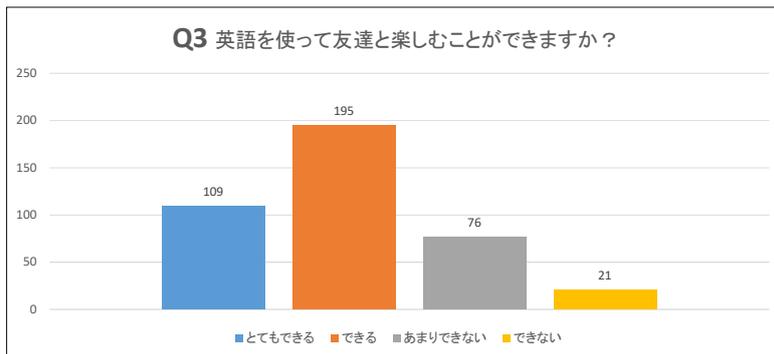
学年が上がり、学習内容がより高度になるにつれて、「楽しい」だけでなく「学習して分かった」等のとらえ方に変化していることも考えられるので、児童一人一人のつまずきを反復練習で補ったり、既習内容の補充学習を行ったりすることで、「分かった」や「できた」と感じられるようにしていきたい。



【Q2について】

「とても楽しい」「楽しい」と答えた中で、一番多かった内容は「ゲーム」で、3分の2の児童が楽しさを感じている。また、ゲームはどの学年でも楽しいと感じている児童が多く、学習意欲の保持や向上に効果的であると思われる。

次に多かった内容が「歌やダンス」で18%となっている。表現することの楽しさを感じ取って学習できている児童が多いので、外国語(英語)を使って体全体で表現する楽しさが更に感じられるように、歌やダンスなどの動きのある活動を更に多く取り入れていきたい。

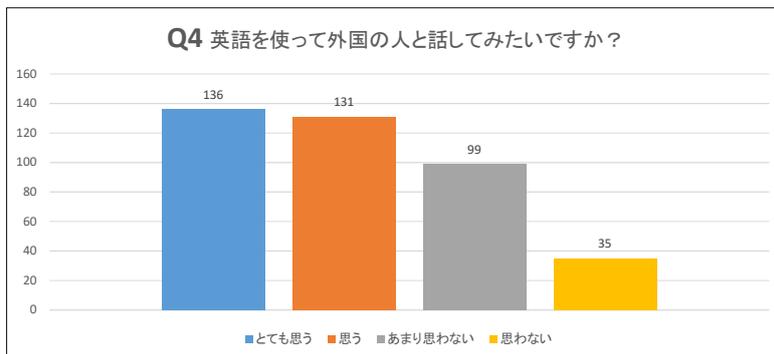


【Q3について】

全体では、「とてもできる」「できる」を合わせて約78%の児童が友だちと外国語(英語)を使って楽しむことができている。

ただし、高学年になるにつれて、「あまりできない」「できない」の割合が高まる傾向がある。

そこで、児童同士の対話活動の充実を図ることで、表現することに慣れさせていきたい。また、英語を使って友だちと会話ができ、伝えたいことが通じ合えた等、成功体験を積み重ねて自信をつけていきたい。



【Q4について】

全体としては、「とても思う」「思う」を合わせて約67%の児童が「話してみたい」という思いを持っている。ただ、3分の1の児童が「あまり思わない」「思わない」と答えており、原因を把握し、児童に「話してみたい」と思えるような授業改善に努めていく必要がある。

また、授業の内容が実際の生活に生かされると児童自身が感じられるように、児童にとって必要感のある学習にしていくことも大切であると考えられる。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

保護者や学校関係者からは、「外国語(英語)に親しんだり学習したりするのは早い方が良いと思う。」など肯定的な意見が多く聞かれた。

また授業については、「ALTやICTの活用を更に増やしてほしい」等の意見や要望もあった。

【考察・今後の展望等】

外国語(英語)の授業に対する児童・保護者・学校関係者の方々の評価や期待は、かなり高いと思われる。

今後は、更に授業の質を高め、すべての児童が外国語(英語)の学習を通して楽しみながらコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していきたい。